KARIO GA BOKURA NI KURETA MONO

当事者性を起動させる装置としての演劇。

～鑑賞の手引きにかえて～

舞台の上と観客席の間には、越えられない一線があって、舞台の上で、たとえ目をそむけたくなるような陰惨な殺人が起きていようが、宇宙人が襲来して全人類を奴隷にしてしまおうが、「これはぜんぶ絵空事だから、お客様がた、どうぞお掛けになって、ゆったりとご覧くださいね」というのが演劇の基本的な約束事である。そんなことはさすがの私も知っている。知ってはいるが、その約束事に私はどうしようもなく違和感を覚える。

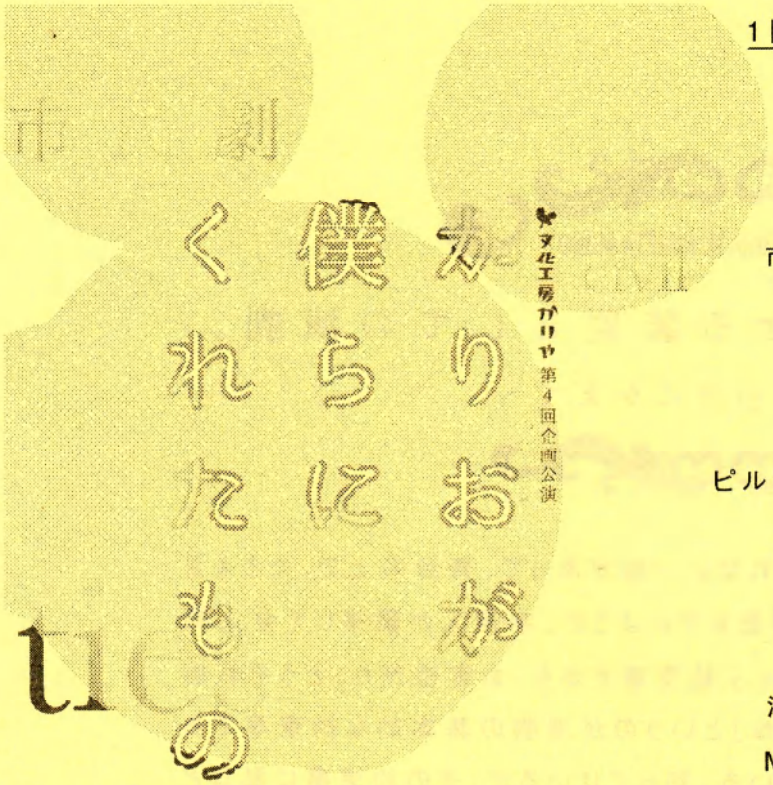
たとえば学校。先生が教壇に立って、一方的に喋りまくる授業は、「工夫がない」「もっと生徒が主体的に関われる授業を」など、やいのやいの言われる。「授業が下手くそだ」「生徒をおいてきぼりにして、ひとりで授業やった気になってる」と陰口を叩かれる。なのになぜ演劇では、役者だけが汗かいて、お客はのほほんとイスに座って何もしないでいても、それが当たり前だと片づけられてしまうのか。

そうした違和感を、芝居の大元の約束事に対して抱いている私は、観客と役者の境、舞台と客席の境を取っ払うような芝居つくりを志向してきた。観客が芝居の当事者になるような芝居を作りたいと願ってきた。従って、私の芝居では、役者は観客の当事者性を起動させるための装置としての役割を担うことになる。そのために役者は、肉体のちから、声のちから、そして何よりも人を「かた騙る」ちからが要求されることになる。

会場に一歩入ったら、あなたはもう安全ではない。あなたも、この会場で束の間紡ぎだされる物語の当事者なのだ。さあ覚悟はいいか。

この物語のなかに、じぶんがいる。そう思って観てくれれば、公園の写真がべたべた貼ってある意味も、そしてこの芝居を通して私たちが伝えたかったことも、すべて腑に落ちて、気持ちよく帰路につくことができよう。そして、あなたを取り囲む人やモノたちが、これまでとは違った意味を持って立ち上がることだろう。

脚本・演出　兵藤 友彦



家族とは
絆とは

Staff

制作
甲村敬司

総合美術・照明
髙木康広

キーボード演奏
多田直幸

照明オペレータ
鈴木徳子

音響オペレータ
日沖和代

脚本・演出
兵藤友彦

Cast

1回目公演	役名	2回目公演
ネネム	かりお	ネネム
日向ちな	日向	日向ちな
笑多	カメラマン	笑多
市川瑞希	レポーター	市川瑞希
季咲	女子高生1	季咲
おまつ	女子高生2	おまつ
ジロー	男子校生1	ジロー
ピルクル加藤	男子校生2	ピルクル加藤
わびさび	男子校生3	わびさび
バラッサ	市民1	大田あやこ
平みぃ	市民2	平みぃ
清水美穂	市民3	近藤トム
Maeyan	市民4	バラッサ
早瀬まどか	市民5	Maeyan
浅津劣斗	市民6	浅津劣斗
和笑	先生	和笑
うさっぴー	小学生1	いちごミルク
キュート	小学生2	若紫
深谷美ノ里	小学生3	さくら
チロル	小学生4	さとうはるか
野々垣健	オジサン	野々垣健
サッチ	若い女性	サッチ
近藤トム	オバサン	清水美穂
水浜ゆう	上手1	早瀬まどか
satomi	上手2	satomi
たみこながた	上手3	たみこながた
栗林昌弘	上司	栗林昌弘
ピルクル加藤	職員1	ピルクル加藤
わびさび	職員2	わびさび
石宮古巻	職員3	石宮古巻
小平井友紀	職員4	小平井友紀
掛橋修	職員5	掛橋修
音猫	中学生	音猫
オダギリ子	OL	オダギリ子
大田あやこ	下手1	水浜ゆう
みん	下手2	みん
春野園	下手3	春野園